大阪医科薬科大学病院産婦人科臨床研修必修プログラム

Ⅰ．目的と特徴

①臨床医として必要な全般的な医療技術の基本とプライマリ・ケアの知識・技能を習得することを目指す。

②臨床医として必要な女性診療科における臨床的知識・技能を修得し、全年齢通した女性の精神・身体両面からの健康管理を学ぶ。

③当院では大阪府下でもトップクラスの母体緊急搬送症例があり、研修中には連日多くの合併症妊娠や産科救急疾患を経験することが出来、これらの知識の習得と、管理、診療の実際を学ぶことが出来る。

④胎児期からの診断と管理のために、胎児精密超音波検査を取り入れている。これらの専門的知識を学ぶことが出来、また関連施設との連携による新生児管理も学ぶことが出来る。

⑤不妊疾患として、女性の内分泌的ホルモン環境を理解し、不妊治療の実践として、人工授精、体外受精や顕微授精など最先端の生殖医療の技術を学ぶことが出来る。

⑥婦人科腫瘍では、現在では良性腰瘍約8～9割に対しては、低侵襲の手術として年間約200例の腹腔鏡下手術・子宮鏡下手術をおこなっており、内視鏡下手術の知識と技術の習得が出来る。

⑦悪性腫瘍においては、年間200例を越える全国トップレベルの症例数を誇り、悪性腫瘍手術における骨盤外科医として、その解剖に則った手術手技を習得できる。また婦人科腫瘍の特徴である、手術療法、抗癌剤治療、放射線治療などを組み合わせる集学的治療を学べ、実際の受け持ち医として治療に関わることが出来る。

⑧女性のトータルヘルスケアを担う産婦人科医として、女性予防医学を全般的に学ぶことが出来、動脈硬化や骨粗鬆症による骨折などを防ぐための予防医学を目指した薬物療法や骨盤再建における手術療法など様々な治療を学ぶことが出来る。

Ⅱ．教育課程

１）時間割（週間スケジュール）

	月	火	水	木	金	土
午前	8:30 周産期ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ/医局会 9:00 産科ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ 外来/病棟	8:45 産科ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ 手術/外来/病棟	8:30 婦人科腫瘍ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ 9:00 産科ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ 外来／病棟	8:45 産科ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ 手術/外来/病棟	8:45 産科ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ 外来/病棟	外来/病棟
午後	外来/病棟	手術/外来/病棟	病棟 15:30 婦人科回診	手術/外来/病棟 16:45 NICU ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	外来/病棟	

２）研修内容と到達目標

本コースでは、臨床研修を始めるにあたり、臨床医として最低限必要な全般的な医療知識・技能を学んでもらう。さらに産婦人科診療の基礎と産婦人科救急の対応など下記目標を達成するために、各領域での担当医として治療に関わってもらうことで、基本的な産婦人科の知識を学んでもらう。

【プライマリ・ケア】

＊臨床医として必要な全般的な医療技術の基本とプライマリ・ケアの知識・技能

＊産婦人科領域のプライマリ・ケアとして、分娩の介助・産科救急への対応

臨床医として必要なプライマリ・ケアとして、点滴挿入や静脈内注射、全身の理学的診察、血液検査データの判読、術前検査、術後管理などを担当医として、指導医の下で学んでもらう。さらに、産婦人科領域のプライマリ・ケアとして、女性特有の月経周期に関わる症状の問診、内診の仕方、経膣超音波の使い方を学び、婦人科診察の技能を習得してもらう。また、分娩に関わる介助や産科救急への対応について、担当医として指導医のもとで研修してもらう。また、当直を指導医のもとで行ってもらうことで、産婦人科の救急対応についても研修することが出来る。

【生殖内分泌（不妊）】

＊内分泌・不妊患者の診断・管理・治療に関わる知識・技術の習得

生殖医療においては、正常女性の内分泌的ホルモン環境の基本知識を身につけ、不妊症例の診断と各種検査（卵管造影、腹腔鏡検査、精子検査、卵巣機能検査）の基礎を学んでもらう。

【周産期】

＊女性診療科における問診、診察方法（外診・内診）の基礎を習得

＊プライマリ・ケアとしての分娩介助の習得

＊プライマリ・ケアとしての産科救急疾患の知識と対応を習得

外来診療の助手として研修医を各診察室に配置しており、順番に各種診療の研修を行うことが出来る。まず、基本的な妊産婦管理のための診察方法、検査法、超音波検査方法の基礎を学んでもらう。本コースでは、産婦人科診療の基本が出来るレベルに達成してもらうように目標を定めている。さらに、周産期カンファレンスでのプレゼンテーションをはじめ、緊急時の担当医として、指導医とともに治療に関わってもらう。

【内視鏡】

＊婦人科疾患における内視鏡手術の技術習得

当院では、婦人科良性腫瘍、良性疾患（子宮外妊娠、付属器炎、内膜症、不妊症）においては、約8～9割の症例で内視鏡手術を行っている。そのため、緊急手術も含め数多くの内視鏡下手術を経験することが出来る。本コースでは、各種疾患の担当医になり、診断から検査、治療の立案はもちろんのこと、実際の内視鏡下手術として、子宮鏡下手術、腹腔鏡下手術を経験してもらう。これらの手術手技を学ぶために、教室には腹腔鏡下手術シミュレーション機器を置き、常時手術の練習を行うことが出来る。

【腫瘍】

＊腹部手術の基本手技から解剖に則った骨盤外科手技を習得

＊子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌における、術前抗癌化学療法、手術療法、術後化学療法、放射線療法など集学的治療を学び、癌治療における全般的な知識と治療経験を積む。

婦人科腫瘍症例に対しては、初診外来の助手として、診断から検査、超音波断層法、MRI、CT等の画像所見の読影、治療計画の立案を学んでもらう。良性腫瘍、悪性腫瘍症例も含め、毎月100例ほどの新規症例の担当医として経験を積んでもらう。毎週金曜日

に行われる症例検討会では、担当した手術症例の報告と、新規症例のプレゼンテーション、CT、MRIの読影を行ってもらう。また、毎週木曜日に行われるオンコロジーカンファレンスでは、担当している悪性腫瘍患者のプレゼンテーションを行い、治療計画の立案や議論に参加してもらう。さらに、悪性腫瘍手術では、実際の担当医として、指導医の下メスを握って開腹から実際の手術手技を経験してもらう。

【更年期女性内科・骨盤再建外科】

＊骨盤再建外科に関わる疾患の治療アルゴニズムの立案に関わる知識・手術技術の習得

更年期女性内科には閉経という女性が必ず迎える内分泌的な変化以降に生じる多種疾患を管理しトータルヘルスケアを目指す。更年期障害、高血圧、高脂血症、動脈硬化、骨粗鬆症、排尿障害、尿失禁、性器脱などに対して、動脈硬化を予防することや骨粗鬆症による骨折を予防することに重点をおくことで、各種症状に応じた予防医学に基づく治療アルゴニズムを作成してあり、内科的治療または外科的治療を学んでもらう。

骨盤再建外来では排尿障害、尿失禁、性器脱などに対して、骨盤再建外科に関わる疾患の治療アルゴニズムの立案に関わる知識・手術技術を習得してもらう。

研修では、問診から始まり、診断、治療計画の立案に参加し、実際の治療を担当医として経験してもらい習得してもらう。

以上の研修内容に基づき、産婦人科の基本的知識と技能を習得できるようになる。

3）指導体制

各診療科の科長、医長を中心に教育職すべてが指導する。担当医として緊急搬送症例、分娩症例、婦人科疾患症例も含めて病棟患者を受け持つ。ただし、単独医ではなく上級指導医、主治医として助教、レジデントの指導のもとでチーム医療を行う。担当する症例については、毎週、周産期カンファレンス、オンコカンファレンス、術前症例検討会で症例検討を行う。興味ある産科学および婦人科学の疾患について、抄読会で指導医と共に文献抄読を担当する。また、外来研修では初診外来をはじめ各種外来の助手として診察室に配置され、実地医療を学ぶことが出来る。

Ⅲ．評価方法

各々のコース別に臨床研修項目到達度チェックリストを設定し、評価する。本研修の評価は日本産科婦人科学会研修医指導要領に沿って行われる。日本産科婦人科学会に加入した場合、本研修期間は専門医研修期間に算定できる。将来、総合科初期研修プログラムを終了し産科婦人科学を選択する場合、本研修は大阪府医師会・母性保護指定医の研修期間に算定できる。また、各種学会に加入した場合、本研修期間は学会認定医・専門医研修期間に算定できる。